

## 栗田ひろゆき 議会レポート

新しい年を迎えました。

台風15号で被災された多くの方々に、心よりお見舞い申し上げます。

昨年11月議会の報告をいたします。

今回は、台風15号に関する質問が多く出され、それに伴う復旧予算や災害対策などが議論されました。



### 台風15号による静岡市の状況とその対応策

#### ① 災害復旧など重点事業に173億円計上されました。

一般会計・特別会計・企業会計を合わせた総額。このうち被災道路1,204ヶ所・被災河川71ヶ所・被災者と支援事業に18億7,200万円。総合計286億2,100万円。

#### ② 台風15号・静岡県が激甚災害指定されました。

県と市が日本政府に「激甚災害指定」を要望し指定された。公共施設や農地などの補助率がアップされ早期復旧がすすめられます。公共土木施設（河川・道路・下水道など）や私立学校・公共社会教育施設・農地や林道などの復旧に適用されます。

#### ③ 静岡市断水対策に有識者会議を設置します。

大規模な断水が発生したことにより、63,000戸が被害。その為年度内に有識者による会議を設置する予定。取水口複数設置案など協議予定。

#### ④ 静岡市文化財復旧に5,000万円計上されました。

台風の豪雨災害で甚大な被害を受けた清見寺公園・久能山東照宮・小島陣屋跡・三池平古墳・臨濟寺庭園の5ヶ所の復旧費用に充てられます。

#### ⑤ 災害ごみ置き場・課題山積でした。

静岡市で台風15号による床上浸水した住宅は1,625棟に達しました。これは県内の6割でそこで出された災害ごみは約2万トンを越えました。

市は対応に苦慮して、公園などにごみが集中的に廃棄されました。市が災害廃棄物処理計画で定める5千平米以上の仮置き場が決定したのは1週間後の9月30日でした。対応の遅れによる市民からの苦情が殺到しました。

#### ⑥ 災害ボランティアの活動が大きな力となる。

葵・駿河・清水各区に災害ボランティアセンターを開設、清水区では9月26日から被災された皆さまの困りごとに寄り添い、生活の復旧を支援しています。

延べ3,000人以上のボランティアが支援の手をさしのべてくれました。

# 台風15号災害の現状報告です



◎清水区承元寺 取水口が流木で機能停止  
清水区63,000戸が断水



◎清水区草薙 草薙川の堤防が一部破損され危険な状態となった



◎清水区吉川 北部地域が浸水。一時、  
通行不能となる



◎清水区押切 災害ゴミが多量に出され、  
深刻な状態となった



◎清水区天王東 災害ゴミの仮設場として  
多くの公園が利用された



◎清水区吉川 多くの家で床上浸水となり、  
たくさんの量が廃棄処分となった



◎はーとびあ清水 災害ボランティアによる  
支援活動



◎清水区石川新町 道路は多くの泥土で  
おわれ通行不可能になった

## 市民環境教育委員会

静岡市不良な生活環境を解消するための支援及び措置に関する条例の制定（「ごみ屋敷」条例）

議員提案によって作られた「条例案」が本議会で制定。これにより本市は、自宅等でのごみの堆積、動物の不適切な飼育等に対し罰則、行政代執行など強制力の行使が可能になる。同時に収集業務課や福祉部局等の連携で市民に寄り添った形での支援も進めていく。  
(宮澤圭輔、浜田佑介)



住民への寄り添い、福祉的支援にも重点。



## 観光文化交流委員会

今回の補正予算で、安倍川河川敷スポーツ広場、農業用施設（農道・茶畑・わさび田など）、日本平動物園などの台風15号で被災した施設などの災害復旧事業に充てられる。（栗田裕之）

- ・体育施設災害復旧事業 6億2860万円
- ・公園災害復旧事業 1.4億円
- ・被災中小企業等再建支援助成 1.6億円
- ・農業関連災害復旧各事業 26.6億円
- ・治山林道関連災害復旧各事業 12.6億円 など



## 厚生委員会

創生静岡も掲げる子育て支援策、第一弾が国から設定されました。

- 【概要】子育て家庭の孤立感・不安感を解消する。  
【対象】①令和4年度中に出生する子供の養育者  
②令和5年1～3月に妊娠届出する妊婦  
②は令和5年度出生予定の子も対象）  
【給付額】  
1回目（妊娠届出後） 妊婦1人あたり5万円  
2回目（出生届出後） 新生児1人あたり5万円※  
※複数児の場合は出生児数分 相談は各保健福祉センター  
(白鳥実)



妊娠時と出生時に  
5万円を給付

## 都市建設委員会

大浜公園再整備事業の債務負担行為・変更

大浜公園再整備事業のPFI事業者を再公募するにあたり、物価上昇の影響に対応するとともに、公園全体の魅力を向上させ、さらなる賑わいを創出するための整備内容の拡充及びそれにとまう運営コストの増等を考慮し、債務負担行為限度額を追加。（石井孝治）

総事業費 当初23.7億円→35.7億円（+12億円）



## 総務委員会

総務委員会の主な議案は2点。「物価高騰に伴う予算増額」と「第四次総合計画」の基本構想・計画についての審議が行われた。物価高騰関連では静岡庁舎など15施設に9,580万円の追加補正ほか、総合計画の政策体系について議論が行われた。創生静岡は会派意見として、財政規律の重視、具体的な事業計画の選定と目標設定が大切と意見を述べ、原案を了承した。  
(風間重樹)



静岡市「第四次総合計画」が可決。SDGsやジェンダー平等、多文化共生社会の推進などが盛り込まれた。

## 企業消防委員会

台風15号による未曾有の災害を受けたことによる、復旧事業に関わる補正予算計上が主なものである。上下水道局においては清水区の承元寺取水口機能停止による断水で日常生活が混乱したことで水源確保の早急な検討が求められた。消防局においては、洪水区域で浸水した消防自動車の車両修繕が求められた。  
(安竹信男 長沼滋雄)



被災した承元寺取水口を現地調査（9月27日）

# 来年度予算編成に向け、政策を提言

## 令和5年度の当初予算編成に先立ち、静岡市議会創生静岡は市長に政策を要望（11/7）

世界を席卷する新型コロナウイルスの影響は、本市の経済の低迷や医療機関に係る対応は今後も予断を許さない状況。また、本年9月23日に発生した台風15号の復旧は未だ道半ばであり、自然災害の市民生活に与える影響は、甚大なものであることを再認識させた。このような状況の中、本市は新たに策定される「第4次総合計画」の初年度となり、厳しい財政状況の中・険しい市政運営が求められている。

創生静岡は、毎年恒例となっている「新年度予算編成」に対する提言を田辺市長と市当局に対し行った。

（白鳥実）



田辺市長に政策要望を手渡す創生静岡議員団（11月7日）



静岡県元副知事の難波喬司さんにも政策を手渡した。

### 創生静岡の3本柱

- ①健全な行政（市民に開かれた）・財政（無駄な事業の総点検）の運営の推進
- ②災害に強く、持続可能な街づくり（自助・共助・公助による災害対策の確立）
- ③「人への投資」（子育てしやすいまちづくり・健康で長寿のまちづくり）

## 創生静岡 視察報告

### 第17回全国市議会議長会主催研究会（長野市） 「デジタル技術を用いた議会の活性化」(10/20)



会議冒頭、元ノルディック複合選手の荻原健司長野市長が挨拶

創生静岡議員団では10月20日に長野市で開かれた全国市議会議長会に全員で出席。「議会改革日本一」を最多受賞した兵庫県西脇市議会議長の林晴信さんらが、講演に登壇した。

林議長は、議会のデジタル化について講演。きっかけは議員定数削減を求める署名運動だという。議員定数の削減は議会不信そのものであると受け止め、改革の実行を決意した。

#### 【市議会でのデジタル化】

- ①常任委員会の市内現地調査をオンライン実施

- ②議会でもZOOMの活用開始

- ③議場に大型モニターとプロジェクターを完備。

#### 【市民へのデジタル化】

- ①オンライン議員と語ろう会（多様な世代、女性参加も）

- ②予算公聴会をYouTubeで配信

- ③デジタル予算書（過去5年間のデータを検索可能に）

議会のデジタル化は、多様化した市民の意見の集約化だけでなく、議員や議会が市民の目に触れることで、議論の質を高めるといふ議員意識の向上にも繋がったという。その上で、「デジタルはあくまでツール。『働きアリの2:6:2の法則』、先行する2割が6割を引っ張る。全員が揃ってできる必要性はない」と指摘した。

これらの内容の多くは静岡市議会では進んでいない。市民に開かれた議会づくりは急務であり、遅れを取らず議会のデジタル化を早期に取り組むことが求められる。

（宮澤圭輔）

## 清水庁舎整備検討委員会 開かれる

12月12日に開催された第5回清水庁舎整備検討委員会では移転建替から一転、改修する方針に決まりました。今年度中にパブリックコメントを実施し、施設計画や財政計画を行った後、現計画の見直しを行い、令和5年度に第三次診断を実施、令和6年度以降に補強計画の策定を行う予定です。

これまでの計画は、現清水庁舎の位置をJR清水駅東口に移転、94億円をかけて新築。現庁舎の場所に桜ヶ丘病院を移転するというもの。移転計画変更の理由について市は「コロナ禍による社会情勢の変化」をあげていますが、「一刻の猶予もない」としてきた、現清水庁舎の耐震性能は大丈夫なのでしょう。

現清水庁舎は昭和58年完成、静岡庁舎は昭和61年の完成。両庁舎とも設計は(株)佐藤総合計画、建設は鹿島建設。いわば双子の関係です。なぜ、清水庁舎だけが耐震性能が劣り、解体の方針が

決まったのか？なぜ、静岡庁舎は安全で長寿命化なのか。構造の専門家らは、清水庁舎の耐震診断のあり方に問題があると指摘しています。

精密な診断の上で対応を決めていくのは人間の体も建築物も同じです。庁舎は市民の共有財産、まずは建物の性能にあった正確な耐震診断が不可欠。厳しい目でチェックしていく必要があります。うです。（風間重樹）



当面の活用が決まった静岡市清水庁舎。4Fに設置されている非常用発電機（=右写真）地階の電気室には防潮扉も設置されている。